

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	長寿社会課	職	課長	氏名	奥泉 元
評価者	組織	長寿社会課	職	課長	氏名	奥泉 元

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	いしかわ長寿大学の学科改編後の修了者数(R2-R6累計)	人	700 (R6)	受講募集せず (R2)	93 (R3)	C
施策2	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	地域見守りネットワーク協定締結事業者数	事業者	100 (R5)	81 (R2)	85 (R3)	A
		生活支援コーディネーター配置数	人	65 (R7)	91 (R2)	116 (R3)	
		認知症サポーター数	人	130,000 (R7)	126,316 (R2)	131,092 (R3)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み					評価			
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)	(年度)						
施策1	課題1	高齢者の生きがいづくり対策	いしかわ長寿大学の学科改編後の修了者数(累計)	人	700 (R6)	受講募集せず (R2)	93 (R3)	1:生きがいと健康づくり推進事業費補助金	県内高齢者	61,538	41,928	B	継続
施策2	課題1	介護サービス従事者の人材育成・定着促進	出前講座講師派遣数(累計)	人	310 (R6)	152 (R2)	165 (R3)	1:実践介護技術出前講座事業費	介護事業所	1,000	188	B	継続
			研修受講者数(累計)	人	600 (R3)	353 (R2)	459 (R3)	2:介護施設ICT・IoT導入促進事業	介護事業所及び従事者等	94,700	83,105	A	拡大
			いしかわ介護フェスタ来場者数	人	6,000 (R6)	中止 (R2)	中止 (R3)	3:いしかわ介護フェスタ開催事業費	一般県民	5,500	146	-	継続
	課題2	在宅高齢者保健福祉対策	研修受講者数(累計)	人	2,100 (R5)	1,141 (R2)	1,465 (R3)	1:認知症介護サービス向上推進事業費	介護サービス従事者	1,100	154	B	見直し
			認知症サポーター数	人	130,000 (R7)	126,316 (R2)	131,092 (R3)	2:認知症地域サポート体制構築事業費	医療・介護関係団体等	2,054	375	B	継続
			地域見守りネットワーク協定締結事業者数	事業者	100 (R5)	81 (R2)	85 (R3)	3:在宅高齢者見守り等支援事業費	事業者等	600	136	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 生きがいと健康づくり推進事業費補助金	事業開始年度 H24	事業終了予定年度	作 組 織 長寿社会課
	根拠法令 ・計画等 石川県補助金交付規則		成 職・氏名 主事 浜塚 詩歩
			者 電話番号 076 - 225 - 1487 内線 4055

事業の背景・目的
 明るく活力ある長寿社会の実現に向けて、高齢者の生きがいと健康づくりを推進するため、各種事業の積極的な展開を図る。

事業の概要

(1) 生きがいと健康づくり事業

①いしかわ長寿大学の開催
 すべての県民が生きがいある豊かなセカンドライフを創造できるよう、高齢者に生涯学習の機会を提供し、地域の高齢者福祉を推進するリーダーを養成する。

- ・会場: 石川中央校、能登中部校、能登北部校
- ・開講期間: R3.10月～R4.9月
- ・講座内容: 高齢者の生きがい・健康づくり、一般教養 等

②全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手団派遣
 高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会づくりのため毎年開催されている全国健康福祉祭(ねんりんピック)に選手・役員を派遣する。(新型コロナウイルス感染症の影響で大会中止となり、派遣なし)

(2) 管理運営費
 県社会福祉会館別館(金沢市八田町)の管理運営費

(3) 交付先
 社会福祉法人 石川県社会福祉協議会

施策・課題の状況					
施策	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進			評価	C
課題	高齢者の健康づくりと介護予防・生きがいづくりの推進				
指標	いしかわ長寿大学の学科改編後の修了者数(累計)			単位	人
目標値	現状値				
令和6年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
700	-	-	-	受講募集せず	93

※目標はR2-R6の累計

事業費						
(単位:千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	66,284	56,893	55,421	60,763	61,538
	決算	54,913	52,276	53,671	43,116	41,928
一般	予算	66,284	56,893	55,421	60,763	61,538
	決算	54,913	52,276	53,671	43,116	41,928
財源		54,913	52,276	53,671	43,116	41,928
事業費累計		308,542	360,818	414,489	457,605	499,533

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	いしかわ長寿大学については、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2.10月開講の新規受講者は募集しなかったため、R3.9の修了者はいない。 R3.10月開講分から、旬の話題や郷土の歴史に関する講座内容を見直し、PRに努めた結果、令和3年度は93人が修了(R4.9)しており、高齢者の健康・生きがいづくり等に寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	高齢者が自己の役割や生きがいを実感しながら生活できる社会づくりが一層重要であることから、今後とも、高齢者の生きがいや健康づくりを目的とする本事業を継続する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 実践介護技術出前講座事業費	事業開始年度 H27	事業終了予定年度	作	組	長寿社会課
	根拠法令 ・計画等		成	職・氏名	事業(1)主事 田中智子 事業(2)主事 児玉麻子
			者	電話番号	076 - 225 - 1487 内線 4055

事業の背景・目的

小規模な事業所では、代替職員の確保が難しく、現場の職員が施設を離れ県等が実施する研修に参加することがなかなか難しい。
これらの問題を解消するため、優れた介護職員や介護福祉士養成施設の教員を派遣し、介護に関する知識・技術等を指導することにより、介護職員の資質向上を図る。

事業の概要

(1) 養成施設教員や「介護技能グランプリ」成績優秀者等の派遣
介護福祉士養成施設の教員や「介護技能グランプリ」の成績優秀者等が小規模事業所等を訪問し、介護技術等を指導することにより、職員のスキルアップを目指す。

- 講師及び指導内容
 - ①介護福祉士養成施設の教員や優れた介護職員
→ 正しい介護の知識・技術を指導
 - ②介護技能グランプリの成績優秀者
→ 実践的で優れた介護技術を指導
- 派遣対象事業所
県実施の研修等への参加が難しい小規模な事業所(25事業所程度を募集)
- 派遣時期等
・R3年7月 募集開始 派遣:9月～12月(12事業所へ13名派遣 ※うちリモート形式:1事業所1名)

(2) 参考にすべき取組を行っている事業所の職員等の派遣
参考にすべき取組を行っている事業所の職員等に、重度化防止・自立支援といった観点から、実際の介護現場における具体的な取り組みを学ぶことにより、介護の質の向上を図る。

- 講師及び指導内容
 - ・参考にすべき取組を行っている事業所の職員等
→ 重度化防止・自立支援に向けた介護につながる実践的な取組を指導
- 派遣対象事業所
希望があった介護施設・事業所(周辺の事業所職員も受講可能)
- スケジュール
・R3年10月 募集開始 派遣:12月～R4年2月
(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集せず)

施策・課題の状況						
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	評価	A			
課題	介護サービス従事者の人材育成・定着促進					
	指標	出前講座講師派遣数(累計)			単位	人
	目標値	現状値				
	令和6年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	310	95	132	152	152	165
事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	決算	321	523	292	0	188
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		1,421	1,944	2,236	2,236	2,424
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	R3年度は、コロナ禍でも要請があった12事業所に対し、介護福祉士養成施設教員及び介護技能グランプリ成績優秀者合わせて13名を派遣した。 講義等を通じ介護の知識・技術を指導することにより、受講者から「利用者さんとのコミュニケーションの大切さを改めて学んだ」といった声が多く寄せられるなど、小規模事業所の介護職員の資質向上に寄与した。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	代替職員の確保や研修への参加が困難である小規模事業所職員の資質向上を図るため、本事業を継続する。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 介護施設ICT・IoT導入促進事業(※)	事業開始年度 R1	事業終了予定年度	作 組 織 長寿社会課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 主事 藤田 彩花
			者 電話番号 076 - 225 - 1416 内線 4054

※R1の「ICT・IoTを活用した介護人材定着促進事業費」の内容を拡充し、事業名を変更したもの

事業の背景・目的 団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、介護現場におけるICT・IoT機器の導入を促進することにより、介護従事者の負担軽減を図り定着促進に繋げるとともに、限られた人材で質の高い介護を目指す。	施策・課題の状況																																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">施策</td> <td style="width: 45%;">高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備</td> <td style="width: 10%;">評価</td> <td style="width: 30%;">A</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td colspan="3">介護サービス従事者の人材育成・定着促進</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>研修受講者数(累計)</td> <td>単位</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">目標値</td> <td colspan="2">現状値</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>平成29年度</td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>600</td> <td></td> <td></td> <td>239</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>353</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>459</td> </tr> </table>	施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	評価	A	課題	介護サービス従事者の人材育成・定着促進			指標	研修受講者数(累計)	単位	人	目標値		現状値		令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	600			239				353				459							
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	評価	A																																					
課題	介護サービス従事者の人材育成・定着促進																																							
指標	研修受講者数(累計)	単位	人																																					
目標値		現状値																																						
令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																					
600			239																																					
			353																																					
			459																																					
事業の概要 (1) 各事業所での導入費用の助成 機器導入の目的や計画等を確認の上、導入意欲がある事業所に対して導入費用を助成する。 <補助内容> 補助対象: 介護保険事業所(80事業所程度) 補助率: 一定の要件を満たす場合4分の3(満たさない場合2分の1) 対象機器: タブレット、見守りセンサ等 (2) 各事業所での導入を推進する旗振り役職員の養成研修 委託先: (一社)日本福祉用具供給協会 内 容: ・機器の機能や活用方法等の解説 ・導入事例の紹介 等 <開催予定回数> 2回	事業費																																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">(単位: 千円)</td> <td style="width: 15%;">平成29年度</td> <td style="width: 15%;">平成30年度</td> <td style="width: 15%;">令和元年度</td> <td style="width: 15%;">令和2年度</td> <td style="width: 15%;">令和3年度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業費</td> <td>予算</td> <td></td> <td></td> <td>14,500</td> <td>17,000</td> <td>94,700</td> </tr> <tr> <td>決算</td> <td></td> <td></td> <td>8,301</td> <td>16,405</td> <td>83,105</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一般</td> <td>予算</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>決算</td> <td></td> <td></td> <td>1,972</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費累計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8,301</td> <td>24,706</td> <td>107,811</td> </tr> </table>		(単位: 千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	事業費	予算			14,500	17,000	94,700	決算			8,301	16,405	83,105	一般	予算			0	0	0	決算			1,972	0	0	事業費累計		0	0	8,301	24,706
	(単位: 千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																																		
事業費	予算			14,500	17,000	94,700																																		
	決算			8,301	16,405	83,105																																		
一般	予算			0	0	0																																		
	決算			1,972	0	0																																		
事業費累計		0	0	8,301	24,706	107,811																																		
	評価																																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">項目</td> <td style="width: 15%;">評価</td> <td style="width: 70%;">左記の評価の理由</td> </tr> <tr> <td>事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">A</td> <td>令和3年度は、想定(80事業所)を大きく上回る137事業所に導入費用を助成した。導入を支援した事業所では、職員の負担の軽減や時間外労働の削減がみられるなど、職場環境の向上に寄与した。また、養成研修受講者数は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインで2回開催(106名参加)した。目標(累計600名)には届かなかったものの、受講者からは「今後の機器導入や導入後の仕組みづくりの参考になった」といった声も聞かれるなど、介護事業所でのICT・IoT機器の導入推進に寄与している。</td> </tr> <tr> <td>今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">拡大</td> <td>ICT・IoT機器未導入の事業所にその理由をヒアリングしたところ、事業所単独では費用が大きく、費用補助の活用を検討したいという声が多かった。導入費用の支援をより多くの事業所に行う必要があることから、令和4年度は対象施設を倍の160施設程度に拡大し、ICT・IoT機器の更なる導入促進を図る。</td> </tr> </table>	項目	評価	左記の評価の理由	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	令和3年度は、想定(80事業所)を大きく上回る137事業所に導入費用を助成した。導入を支援した事業所では、職員の負担の軽減や時間外労働の削減がみられるなど、職場環境の向上に寄与した。また、養成研修受講者数は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインで2回開催(106名参加)した。目標(累計600名)には届かなかったものの、受講者からは「今後の機器導入や導入後の仕組みづくりの参考になった」といった声も聞かれるなど、介護事業所でのICT・IoT機器の導入推進に寄与している。	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	ICT・IoT機器未導入の事業所にその理由をヒアリングしたところ、事業所単独では費用が大きく、費用補助の活用を検討したいという声が多かった。導入費用の支援をより多くの事業所に行う必要があることから、令和4年度は対象施設を倍の160施設程度に拡大し、ICT・IoT機器の更なる導入促進を図る。																														
項目	評価	左記の評価の理由																																						
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	令和3年度は、想定(80事業所)を大きく上回る137事業所に導入費用を助成した。導入を支援した事業所では、職員の負担の軽減や時間外労働の削減がみられるなど、職場環境の向上に寄与した。また、養成研修受講者数は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインで2回開催(106名参加)した。目標(累計600名)には届かなかったものの、受講者からは「今後の機器導入や導入後の仕組みづくりの参考になった」といった声も聞かれるなど、介護事業所でのICT・IoT機器の導入推進に寄与している。																																						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	ICT・IoT機器未導入の事業所にその理由をヒアリングしたところ、事業所単独では費用が大きく、費用補助の活用を検討したいという声が多かった。導入費用の支援をより多くの事業所に行う必要があることから、令和4年度は対象施設を倍の160施設程度に拡大し、ICT・IoT機器の更なる導入促進を図る。																																						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ介護フェスタ開催事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			作 組 織 : 長寿社会課 成 職・氏名 : 主事 養原 遥 者 電話番号 : 076 - 225 - 1416 内線 4053

事業の背景・目的

今後、ますます進展する高齢社会における「介護」をテーマに、参加・体験型のイベントなどを行い、若い世代をはじめとした一般県民に、介護の仕事の魅力や重要性を伝えることで、介護に対する理解を深め、介護分野全体のイメージアップを図る。

事業の概要

内容
 日時 令和3年10月9日(土) ⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
 場所 県産業展示館2号館
 参加者: 一般県民、施設職員

①介護技能グランプリ
 ・介護施設の職員が、食事・入浴・排泄の部門ごとに介護の知識と技能を競い合うコンテストを行う。
 ・各部門最優秀者及び優秀者に対して、表彰を行う

②介護の情報発信コーナー
 ・介護保険のサービス内容をパネル展示

③介護団体・養成校コーナー
 ・各団体の活動内容のPRや、養成校の紹介や専攻コースのPR

④介護ロボット・福祉機器コーナー
 ・福祉用具の展示や、介護ロボット体験コーナーの設置による普及・啓発

⑤ステージイベント
 ・将来の介護を担う学生たちが行う介護に関する取組紹介、市町の取組紹介(介護予防体操など)等

⑥介護のお仕事体験ラリー
 ・来場した小学生の親子が車いす移動体験や食事介助体験など、介護にまつわる仕事をスタンプラリー形式で体験

施策・課題の状況						
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備				評価	A
課題	介護サービス従事者の人材育成・定着促進					
指標	いしかわ介護フェスタ来場者数				単位	人
目標値	現状値					
令和6年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
6,000	3,800	4,200	-	-	-	

事業費					
(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
一般	5,500	5,500	4,466	0	146
財源	0	0	0	0	0
事業費累計	5,500	11,000	15,466	15,466	15,612

評価	
項目	評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	一 R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当該イベントは開催中止とした。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 本格的な高齢社会を迎え、介護に対する一般県民の理解を得ることや、介護人材の確保・資質の向上を図ることは、より一層重要度を増していくため、今後も本事業を継続し、課題の解決を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: 認知症介護サービス向上推進事業費	事業開始年度: H27	事業終了予定年度:	作 組 織: 長寿社会課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名: 主事 渡邊 裕亮 者 電話番号: 076 - 225 - 1417 内線 4049

事業の目的
 本県では、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を見据え、介護職員23,000人の確保に向け、介護人材の確保と質の向上に取り組んでいる。特に、介護事業所等においては、今後認知症高齢者の割合が増加していくことが見込まれることから、認知症への対応力を一層向上することが求められている。
 本研修は、在宅認知症高齢者の多くが利用する通所介護等の介護事業所において、介護職員が、認知症について十分に理解し、それぞれの高齢者の状態に応じた適切なケアができるよう、認知症介護の基本についての研修を実施し、サービスの質の向上を図ることにより、認知症の重度化防止に資することを目的としている。
 ※R3介護保険制度改正により、介護に直接携わる職員のうち、無資格者について、本研修の受講が義務付けられ(3年間の経過措置)、研修は原則としてeラーニングでの実施となった。

事業の概要
 認知症介護基礎研修事業(eラーニング)
 対象者 介護サービス従事者(無資格者)
 実施主体 県の指定する法人
 実施方法 認知症介護基礎研修eラーニングシステムを使用したeラーニングによる自学習
 受講料 3,000円/人

認知症介護サービス向上研修事業(集合研修)
 講師候補 認知症介護指導者養成研修修了者等
 対象者 介護サービス従事者(無資格者でeラーニングによる実施が出来ない者)
 開催回数 1日間×2回

認知症介護サービス向上アドバイザー派遣事業(事業所訪問研修)
 アドバイザー候補 認知症介護指導者養成研修修了者等
 派遣対象事業所 小規模の通所介護事業所等 6か所程度
 実施方法 派遣アドバイザー数 2名/回
 ※研修内容は、派遣先事業所と協議の上、個別に決定
 (例:疾患別ケアの手法、家族支援スキル 等)

これまでの見直し状況(集合研修)
 (R2)
 事務効率化のため、開催時期に近いものについて集約し、開催回数を全6回から全5回へ見直し。
 (R3)
 国の要綱の改定に伴い、eラーニングによる実施へ見直し。

施策・課題の状況						
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	評価	A			
課題	在宅高齢者保健福祉対策					
	指標	研修受講者数(累計)	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和5年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	2,100	720	940	1,087	1,141	1,465

事業費						
(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業費	予算	1,600	1,600	1,000	1,100	1,100
	決算	1,316	1,036	776	241	154
一般	予算					
財源	決算					
事業費累計		4,841	5,877	6,653	6,894	7,048

評価	
項目	評価: 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">B</p> 集合研修を2回(予定どおり)開催し、アンケート結果では、8割以上の受講者が、「大変参考になった」、「参考になった」、「認知症ケアについての考え方に変化があった」と回答しており、受講者の理解度も高く、介護従事者の認知症対応力の強化、サービスの質の向上に寄与している。また、eラーニングを導入したことにより、受講者の増加につながった。 (R2:54人→R3:324人) なお、事業所訪問研修は、eラーニング導入に伴い中止した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">見直し</p> 国の要綱等の見直しに伴い、原則としてeラーニングによる実施としているが、インターネット環境のない介護従事者が研修に参加できるように、併せて集合研修形式での研修も継続して実施する。 他方、事業所訪問研修については、各事業所でeラーニングを活用することによりその目的を達成できることから、R4以降廃止する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: 認知症地域サポート体制構築事業費	事業開始年度: H27	事業終了予定年度:	作 組 織: 長寿社会課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名: 主任主事 室谷 信暁 者 電話番号: 076 - 225 - 1498 内線 4045

事業の背景・目的
 認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会を目指し、県全体で地域における支援体制の構築に向けた取り組みを進める。

事業の概要

1 認知症施策推進体制の構築
 (1) 石川県認知症施策推進会議 (R3は会議資料の送付のみ)
 地域支援体制の構築に向け、医療・介護・福祉の関係機関・団体等により課題整理・施策検討を行う。
 (構成) 学識経験者、医療・介護関係団体、経済団体、地域団体、家族会の代表者 14名

(2) 石川県認知症高齢者等地域支援ネットワーク推進連絡会議 (R3は会議資料の送付のみ)
 幅広い関係機関・団体と情報共有し、地域支援体制の充実に向けた施策推進協力を依頼する。
 (構成) 学識経験者、医療・介護関係団体、経済団体、地域団体、家族会、行政の代表者 40名

2 石川県認知症フォーラム等による啓発及び担い手育成
 ・地域における支援の担い手の育成と効果的な活動のために、先進事例や取組事例等を学ぶ。
 (内 容) 基調講演(新型コロナウイルスの影響を考慮し、講演動画を一定期間ウェブ上で配信)
 (参加者) 介護関係者、地域包括支援センター・行政関係者 等
 (視聴回数) 約1,900回
 ・認知症高齢者等の見守りに取り組む企業や市町担当者等を対象に、認知症の症状を体験できるバーチャルリアリティ(VR)体験を実施

3 認知症ハートフルサポート企業・団体認定
 一定の登録要件を満たす地域の企業等を「認知症ハートフルサポート企業・団体」として認定する。
 認定企業等については、県のホームページに掲載するとともに、ステッカーを交付し、店舗や事務所等に掲示してもらう。
 (登録要件)
 認知症高齢者にやさしい企業・団体であることを宣言し(必須)、以下の取り組みを実施する。
 ①市町等が実施する認知症サポーター養成講座の受講
 ②地域見守りネットワーク、徘徊・見守りSOSネットワークへの参画など企業・団体の特性に応じた取組

①及び② → ゴールド認定 (R3末現在: 222事業所)
 ①又は② → シルバー認定 (R3末現在: 19事業所)

施策・課題の状況							
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備					評価	A
課題	在宅高齢者保健福祉対策						
指標	認知症サポーター数				単位	人	
目標値	現状値						
令和7年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
130,000	100,200	111,866	121,715	126,316	131,092		
事業費							
(単位: 千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
事業費	予算	2,600	2,400	1,512	2,596	2,054	
	決算	1,358	1,715	979	140	375	
一般	予算	1,300	1,200	756	1,298	1,027	
財源	決算	679	885	490	70	188	
事業費累計	4,977	6,692	7,671	7,811	8,186		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	認知症フォーラムについては、ご家族による介護体験や高齢者のeスポーツの取組紹介をウェブ配信したところ、視聴回数は約1,900回に上った。参加者からは、「家族の気持ちや苦労がよく分かった」「eスポーツという新たな取り組みを知ることができた」等の声もいただき、多くの方々の理解が深まったものと考えている。 また、ハートフルサポート企業については、新たに15事業所を認定し(R2: 46事業所)、地域における支援体制の更なる強化が図られた。 こうした取組もあり、認知症サポーター数は目標(R7: 13万人)を前倒しで達成した。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	認知症の方が今後ますます増加することが見込まれる中、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、引き続き、支援体制の構築に向けた取り組みを進める。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 在宅高齢者見守り等支援事業費	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		作 組 織	長寿社会課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主任主事 室谷 信暁
					者 電話番号	076 - 225 - 1498 内線 4045

■事業の背景・目的

ひとり暮らし高齢者の孤立化防止等のため、電気・ガス事業者など民間事業者と連携した「地域見守りネットワーク構築事業」のほか、会話する中で安心感を与えることができる「傾聴ボランティア養成事業」や、医療・介護サービス等の利用実績がない75歳以上の高齢者宅を、必要に応じて市町保健師等が訪問し、必要なサービス利用につなげる「お達者ですか訪問事業」を実施する。

また、地域見守りネットワークの着実な推進やボランティア及び市町職員への研修の実施により、市町における体制整備を支援する。

■事業の概要

【内容】
○在宅高齢者の見守り等の支援

①地域の見守り活動の促進(地域見守りネットワーク)

- ・ネットワーク企業の拡大(R3末現在:85社)
- ・企業への個別研修の実施(R3:実施希望なし)
- ・企業及び市町向けの研修・意見交換会の実施(R3:1回開催)

②傾聴ボランティアの養成

- ・認知症高齢者の傾聴講座(R3:新型コロナウイルスの影響を考慮し中止)
- 対象: 傾聴ボランティアとして活動している方、傾聴活動に興味のある方

③お達者ですか訪問事業の実施

医療や介護サービスの利用実績や健康診断の受診がない75歳以上の高齢者の情報を市町に提供し、当該高齢者の中から孤立が疑われる方を、市町の保健師等が訪問するなどし、必要なサービス利用につなげる。

施策・課題の状況						
施策	高齢者のニーズに対応したサービス基盤の整備	評価	A			
課題	在宅高齢者保健福祉対策					
	指標	地域見守りネットワーク協定締結事業者数	単位	事業者		
	目標値	現状値				
	令和5年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	100	63	67	78	81	85
事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	700	700	600	600	600
	決算	539	471	49	50	136
一般	予算	400	400	325	325	275
	財源 決算	222	171	49	15	59
	事業費累計	6,815	7,286	7,335	7,385	7,521
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	傾聴ボランティアの養成講座は新型コロナウイルスの影響で中止した一方、地域見守りネットワークの企業等向け研修はオンラインによる認知症バーチャルリアリティ体験として開催し、参加者から「認知症の方の見え方・感じ方が理解できた」「本人に寄り添うことの大切さを確認できた」との声をいただくなど、企業等における認知症への理解が更に深まったものと考えている。 また、地域見守りネットワーク協定については、医薬品販売事業者など新たに4事業者と締結し、着実に広がりを見せている。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、認知症高齢者等の増加が見込まれる中、地域における見守り体制の強化のため、引き続き、ネットワーク企業の拡大や傾聴ボランティアの養成等に取り組む。				